



## OPECプラス、広がるほころび 見えぬ原油減産の「出口」

石油輸出国機構（OPEC）プラスのほころびが広がっている。6月の閣僚級会合を前に、参加国が減産方針を巡りさや当てを演じる。市場では7月以降も減産を続けるとの見方が大勢だが、逆行する動きもある。原油価格が狙い通りに上がらず、思惑の違いを覆いきれなくなっている。

「さらなる減産には同意しない」。11日、OPECでサウジアラビアに次ぐ原油生産量を誇るイラクのアブドゥルガニ石油相は、首都バグダッドで開かれたエネルギー関連のイベント会場で記者団に話した。

イラクの3月の生産量は日量430万バレルと、OPECプラスの割当枠（400万バレル）を超えている。5月上旬にはOPEC側の指導のもとで枠を守る削減計画を作っていた。翌12日には「OPECが下す、いかなる決定も順守する」と火消しに回ったが、市場関係者は「本音が出た」とみる。

サウジなどで作るOPECに非加盟のロシアなどが加わるOPECプラスは、半年に1度の閣僚級会合を6月1日にウィーンで開く。2023年11月末の前回会合では、24年1月から有志8カ国が日量220万バレルの自主減産を実施すると決めた。3月には期間を6月末まで延長していた。

今回は7月以降も自主減産を続けるか協議する方向だ。OPECプラスは22年8月に増産を決めたのを最後に、減産を強化してきた。これまでの協調減産と自主減産を合わせた削減幅は日量800万バレルと、世界需要の1割弱にあたる。





市場では減産を延長するとの見方が多い。理由は原油価格の下落だ。米原油指標のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）先物は1バレル78ドル近辺、欧州指標の北海ブレント先物は83ドル近辺と、イスラエルとイランの緊張が高まった4月の年初来高値より約1割安い。

そんな見立てにあらがう動きを示すのはイラクだけではない。アラブ首長国連邦（UAE）のアブダビ国営石油会社（ADNOC）も2日、石油生産能力を日量485万バレルと23年末より20万バレル増やしたと発表した。

ほころびの芽は前回の会合で見えていた。OPECの盟主サウジは参加国全体による協調を目指したが、それまでに枠を減らされてきたアンゴラやナイジェリアといったアフリカ勢が猛反発。アンゴラに至っては「OPECにとどまっても何も得られない」と、同会合を最後に脱退した。

減産すればその分収入が減る。国によって減産への耐性は違う。前回会合で拘束力の弱い自主減産にとどめたのも、空中分解を避け、参加国が同じ方向を向いている体裁を保つためだった。苦肉の策が長引くほど、思惑の違いも目立ってくる。

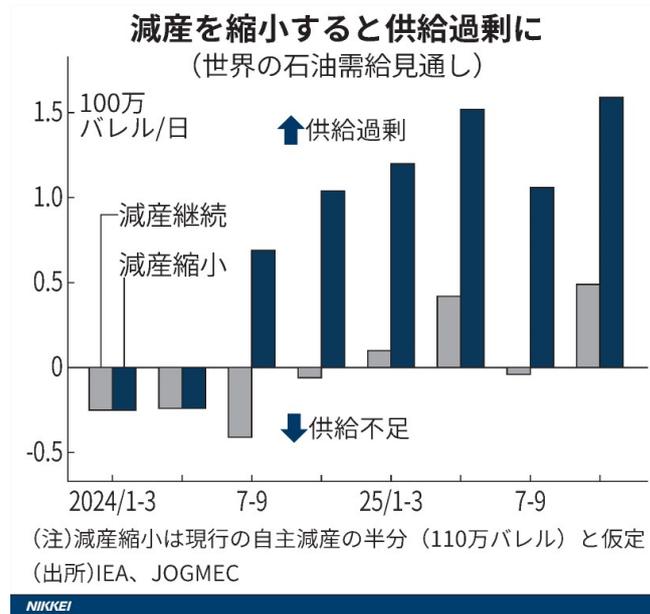
OPECプラスの理想は、原油価格の上昇によって減産の緩和や解除といった「出口」を見いだすことだ。市場が判断の分水嶺と見るのは、ブレントで1バレル90ドル台という水準だ。

国際通貨基金（IMF）の4月時点の試算によると、サウジの財政が均衡する原油価格は23年が93.3ドル、24年が96.2ドル。23年10月の予想ではそれぞれ85.8ドル、79.7ドルだった。生産が減ったことで採算ラインが上がっている。

米シティグループは地政学リスクの後退を踏まえ、4～6月のブレントを86ドル程度と見込む。市場予想以上に価格が上がれば各国の採算は改善する。「ブレントが90～100ドルの強気レンジに移行すれば、OPECプラスは減産を緩和する可能性が高い」と予想する。

価格の上昇要因は乏しい。国際エネルギー機関（IEA）は4月中旬の石油市場リポートで、24年の世界の石油需要を23年比で日量120万バレル増と、前回予想を20万バレル下方修正した。OPECは14日発表した5月の月報で同220万バレル増と予想を据え置いたが、力強さにはほど遠い。

米ゴールドマン・サックスも「今回の会合で自主減産解除を打ち出すとは考えていない」と指摘する。中国の石油製品需要が伸びず、世界の石油在庫が増えているのが理由だ。米JPモルガンも延長を見込む。



原油供給は増加が見込まれる。IEAの4月レポートによると、24年の世界の石油供給は日量1億290万バレルと、23年比で80万バレル増える見通し。OPECプラスの80万バレル減の分を、非OPECプラスの160万バレル増が打ち消す。米国やブラジル、ガイアナの供給量は過去最高になる見通しだ。

IEAの4月のデータをもとにエネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が分析したところ、自主減産を6月末で終えた場合、7～9月は日量170万バレル、10～12月も210万バレルの供給過剰に陥る。半分の減産規模でも供給は需要を上回り、価格には下押し圧力がかけやすくなる。

閣僚級会合まで2週間あまり。減産で原油価格を押し上げ、平時の生産量に戻すという理想の「出口」はなお見えない。



## 円相場、横ばい圏 156円台半ば

15日早朝の東京外国為替市場で、円相場は横ばい圏で推移している。8時30分時点は1ドル=156円47～49銭と前日17時時点と比べて2銭の円安・ドル高だった。14日に発表された4月の米卸売物価指数（PPI）はインフレの根強さを示し、日米金利差は開いた状態が続くとの見方から円売り・ドル買いが出ている。一方、日本の通貨当局による為替介入への警戒感や、15日発表の米経済指標の内容を見極めたいとの思惑から円売りの勢いは限られている。

米PPIは前月比0.5%上昇とダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想（0.3%上昇）を上回った。インフレの高止まりが意識され、発表後に円相場は一時156円80銭近辺と約2週間ぶりの円安・ドル高水準をつけた。

半面、米PPIは前月比で上昇していた3月分が下落に修正されており、米長期金利の低下もあってドルの上値を抑えている。円相場が節目となる157円台に接近するなか、日本政府・日銀による為替介入への警戒感も円の支えとなっている。15日に発表を控える4月の米消費者物価指数（CPI）など、重要指標の発表を前に積極的な取引を見送りたいとの空気が強い。

円は対ユーロで下落している。8時30分時点は1ユーロ=169円23～25銭と、同48銭の円安・ユーロ高だった。対ドルのユーロ高につられた。

ユーロは対ドルでは上昇している。8時30分時点は1ユーロ=1.0815ドル近辺と同0.0029ドルのユーロ高・ドル安だった。米長期金利の低下がドル売りにつながった



## カタールのエネルギー相「天然ガス、今後100年間必要」

カタールのカアビ・エネルギー相は14日、日本経済新聞などの取材に応じ「今後100年間は天然ガスが必要だ」と語った。同国は世界有数の液化天然ガス（LNG）輸出国で、生産能力の拡大を進める。同氏は再生可能エネルギーへの転換スピードは遅く、中長期に天然ガスの重要性が高まるとの見方を強調した。

首都ドーハで日経などアジアメディアの取材に応じた。同氏は同国国営エネルギー会社のカタールエナジーの最高経営責任者（CEO）も務める。

カタールは世界最大のガス田「ノースフィールド」のLNG生産の拡張を続けている。2月にはこれまでの東部・南部の地区に加えて西部でも新たな生産計画を明らかにした。同国のLNG生産能力は現在の7700万トンから30年までに1億4200万トンに増える。

カアビ氏は、中国などを中心にアジアの経済成長が今後も続き「追加的なガスの需要が出てくる」と強調。「国家のビジョンの一環として、天然ガスや石油で成長しようとしている」と語り、LNG輸出が今後重要な収入源になるとの認識を示した。

脱炭素社会実現に向けた取り組みが想定よりも遅れるとも主張した。「再エネの活用は有用だが、将来的に大きな割合を占めるようになるとは思わない」と語り、再エネの導入にはコストがかかることも指摘。「何が達成できるかを現実的に考える必要がある」と述べた。

ガスは石炭や石油よりも温暖化ガスの排出量が少なく環境への負担が小さいため、欧米などでは脱炭素化に向けた「移行エネルギー」とされる。しかし、カアビ氏はガスが主要なエネルギーとしてとどまるとの立場を強調した。

今後さらにLNGの生産能力を上積みする可能性があるかどうかについては「需要が増えると判断すればやるが、今のところ我々は現在のプロジェクトを立ち上げることに集中している」と述べるにとどめた。

カタールは豊富な天然ガスを原料とし生産時に発生する二酸化炭素を回収する「ブルーアンモニア」の製造計画も進めている。カアビ氏は日本を含むアジア諸国などをアンモニアの販売先として考えていると語った。



## フェノール価格、5月国内大口3%高 原料上昇

フェノール価格  
国内大口3%高

5月、原料上昇

合成樹脂などの原料となる工業薬品フェノールの国内大口価格が上昇した。三井化学などが決める5月分の価格は1キログラム当たり394・2円と、前月比13・3円（3・5%）高い。

値上がりは4カ月連続で、2022年7月に付けた過去最高値まであと5円ほどに迫った。原料

のベンゼンの国内想定価格が上昇したほか、生産に使う重油の価格も上昇した。



## 週間原油コストの推移

|             | 期間        | 原油相場   |       | 為替レート(▲は円高) |       | 円建て原油コスト |       |
|-------------|-----------|--------|-------|-------------|-------|----------|-------|
|             |           | ドル/バレル | 前週比   | ドル/円        | 前週比   | 円/ℓ      | 前週比   |
| 火曜日～<br>月曜日 | 4/2～4/8   | 90.78  | 3.34  | 152.58      | 0.13  | 87.11    | 3.27  |
|             | 4/9～4/15  | 91.24  | 0.46  | 153.67      | 1.09  | 88.18    | 1.07  |
|             | 4/16～4/22 | 89.44  | ▲1.80 | 155.65      | 1.98  | 87.56    | ▲0.62 |
|             | 4/23～4/29 | 89.68  | 0.24  | 156.25      | 0.60  | 88.13    | 0.57  |
|             | 4/30～5/6  | 86.49  | ▲3.19 | 158.00      | 1.75  | 85.95    | ▲2.18 |
|             | 5/7～5/13  | 84.54  | ▲1.95 | 156.28      | ▲1.72 | 83.09    | ▲2.86 |
| 水曜日～<br>火曜日 | 4/3～4/9   | 91.19  | 3.63  | 152.62      | 0.08  | 87.53    | 3.53  |
|             | 4/10～4/16 | 91.15  | ▲0.04 | 154.16      | 1.54  | 88.38    | 0.85  |
|             | 4/17～4/23 | 88.88  | ▲2.27 | 155.73      | 1.57  | 87.05    | ▲1.33 |
|             | 4/24～4/30 | 89.89  | 1.01  | 156.76      | 1.03  | 88.62    | 1.57  |
|             | 5/1～5/7   | 85.62  | ▲4.27 | 157.07      | 0.31  | 84.58    | ▲4.04 |
|             | 5/8～5/14  | 84.53  | ▲1.09 | 156.73      | ▲0.34 | 83.32    | ▲1.26 |

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート